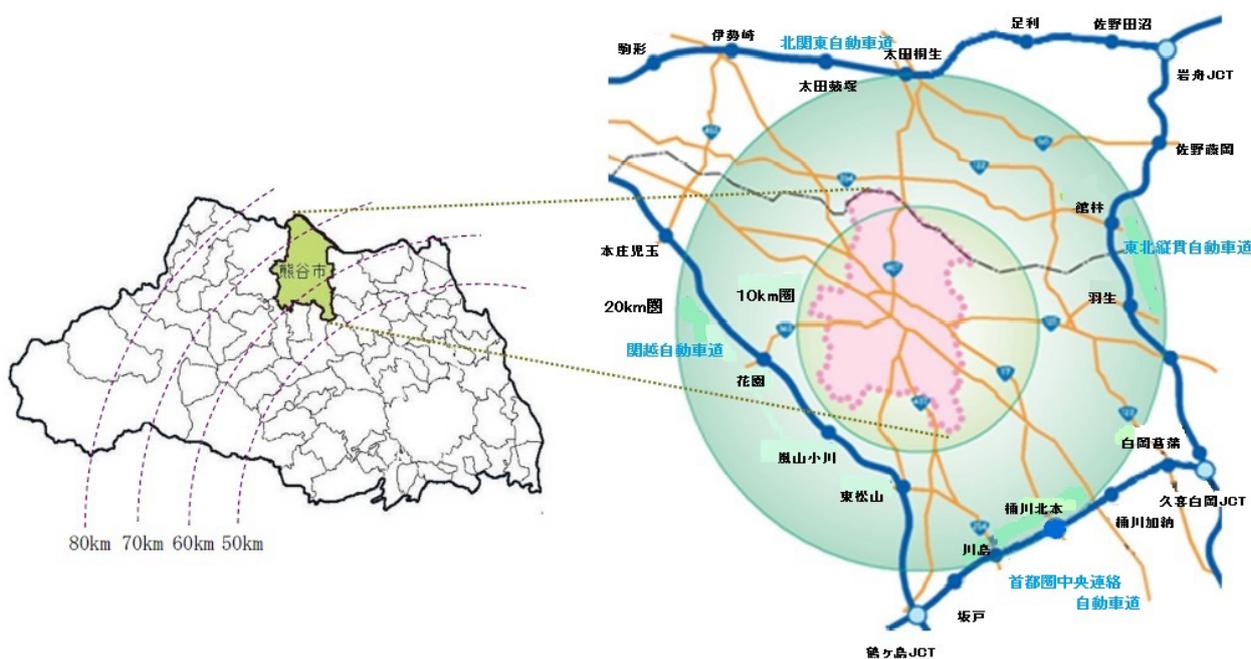


ラグビーワールドカップ 2019™ に関連したパークアンドライドや渋滞対策による道路整備について

埼玉県 熊谷市建設部道路課

1. 熊谷市の概要



熊谷市は、埼玉県の北部にあり、都心から50～70km圏内に位置し、ほぼ平坦で荒川や利根川の水に恵まれ肥沃な大地と豊かな自然環境を有しています。

江戸時代から中山道の宿場町として栄え、交通の要衝として知られる熊谷市は、上越新幹線、北陸新幹線、JR高崎線、秩父鉄道の鉄道4路線と東西に国道17号（旧中山道）を初め、140号、125号の3路線、南北に407号が走っています。

また、市中心部へは、これらの国道等を利用し、関越自動車道花園IC、嵐山小川IC及び東松山ICからは14kmでアクセスでき、東北縦貫自動車道羽生IC、北関東自動車道太田桐生IC及び首都圏中央連絡自動車道川島ICからも約20kmでアクセス可能となっています。

このたび、世界三大スポーツイベントの一つである「ラグビーワールドカップ2019日本大会」を開催する12都市の一つに選定されたことを受け、観客及び選手・大会関係者の安全、迅速、円滑な移動を確保するため、鉄道や道路等の輸送サービスの提供に関する環境整備について「ラグビーワールドカップ2019日本大会 輸送・交通に係る基本方針」を定め、開催都市の一員として大会を成功させ、その資産を大会後のまちづくりに活かす視点から、道路整備を行いました。

2. 現状と課題

ラグビーワールドカップ2019の会場となる熊谷ラグビー場は、鉄道利用者の玄関口となるJR熊谷駅から約4km北に位置しています。

市街地周辺では、各所で渋滞が発生しており、さらに熊谷ラグビー場へ向かう交通が加わることで交通機能が完全に麻痺することが懸念されました。

このため、市内交通と通過交通を適切に処理する道路ネットワークの整備や各高速道路のインターチェンジから会場への円滑なアクセスを確保することが課題となっていました。

3. 大会関係者及び観客の輸送の方策

交通輸送における基本ルートは、大会関係者と観客輸送の特性を踏まえ、関係機関と連携しながら、輸送力及び輸送ルートの改善に取り組みました。

(1) 大会関係者輸送に対する速達性の確保

インターチェンジ及びJR熊谷駅から会場への輸送ルートを強化するとともに、輸送時間帯の交通規制を検討しました。

(2) 観客輸送に対する大量輸送性の確保

① 鉄道利用者

鉄道利用者に対しては、鉄道事業者、バス事業者と連携し臨時電車、シャトルバスの運行による輸送力を強化するとともに各道路管理者と連携し、熊谷駅から会場までの輸送ルートを強化するほか、輸送ルートの混雑緩和に資する道路についての強化を検討しました。

② マイカー利用者

マイカー利用者に対しては、市域周辺の郊外駐車場を利用し、パークアンドライドによるシャトルバス輸送を基本とし、郊外駐車場から会場への輸送ルートの強化を検討しました。

4. 交通輸送における基本ルートの設定の考え方

- ① 大会関係者輸送ルートと観客輸送ルートは原則分離する。
- ② 大会関係者ルートは、インターチェンジから会場駐車場へのアクセスを考慮した市街地を迂回する幹線道路を基本とするとともに、東京や北陸上越方面からの新幹線利用も踏まえ、JR熊谷駅からのアクセスを考慮する。加えて、不測の事態に備えて代替ルートを確保出来るようにする。
- ③ 観客輸送ルートは、熊谷駅のほか、中心市街地に開設され観光振興やまちなかの賑わい創出に資する「ファンゾーン」から会場駐車場へのアクセスを考慮した幹線道路とする。加えて、パークアンドライド駐車場から市街地を迂回し大会会場にアクセスする幹線道路とする。

以上の考えのもと、

- ・大会関係者ルート（インターチェンジ利用・JR熊谷駅利用）
- ・観客輸送ルート（パークアンドライド利用・JR熊谷駅利用・中心市街地の混雑緩和）
- ・歩行者ルート（JR熊谷駅利用者・ファンゾーン利用者）

を基本にそれぞれの輸送計画を策定し、整備を必要とする道路等を選出しました。(図-①、②参照)

ラグビーワールドカップ2019
大会関係者、観客輸送ルート(案)詳細図

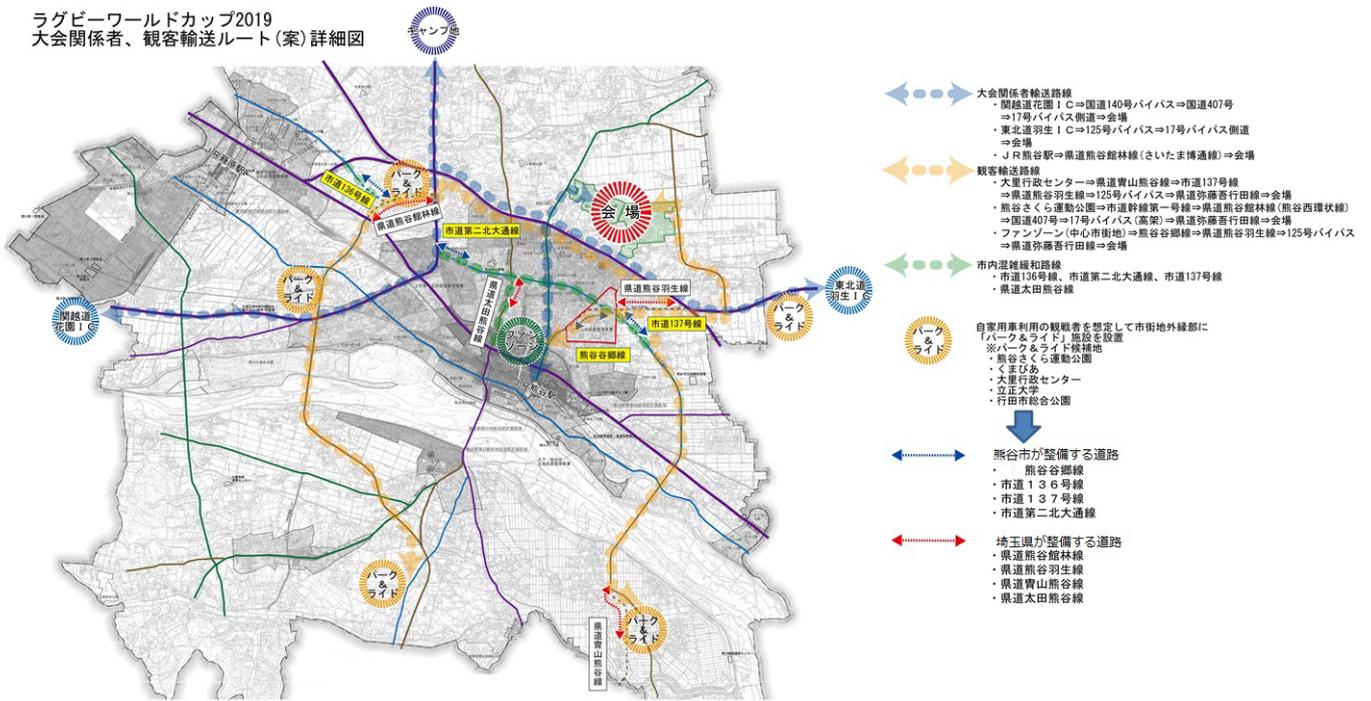


図-①ラグビーワールドカップ2019 大会関係者・観客輸送ルート(案)



図-②ラグビーワールドカップ2019のための周辺道路整備

5. 整備状況

(1) 道路整備

整備は、国、県と連携をはかりながら進め、熊谷市が整備する路線は、令和元年5月に完了しました。整備完了後、(都)第2北大通線と(都)熊谷谷郷線は、平成31年4月13日に、(都)玉井東通線と(都)熊谷西環状線は、令和元年5月20日に熊谷市と埼玉県共催による開通記念式典を開催しました。



(都)熊谷谷郷線・(都)第2北大通線整備状況



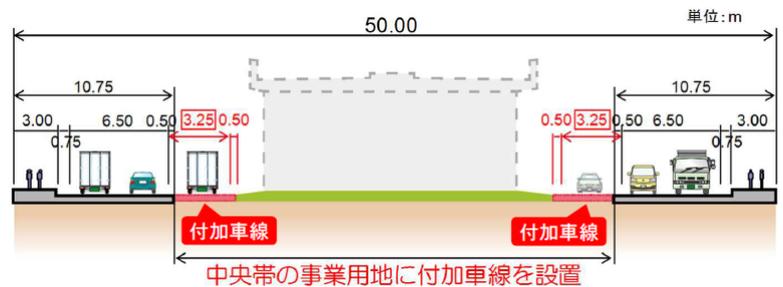
(都)熊谷西環状線・(都)玉井東通線整備状況

国土交通省大宮国道事務所では、国道17号熊谷バイパス上之地区交差点改良事業や国道17号筑波歩道橋の補修・塗装工事を実施しました。

上之地区交差点改良事業の区間は、ラグビーワールドカップ2019の会場の熊谷ラグビー場への輸送経路を担い、熊谷バイパスの中央帯側の道路用地を活用し付加車線を設置(6車線化)する工事を進め、令和元年8月29日に完成開通します。



上之交差点改良事業 位置図



上之交差点改良事業 横断図

国道17号(現道)筑波歩道橋は、JR熊谷駅前に位置し、ラグビーワールドカップ2019会場の熊谷ラグビー場までの徒歩ルートとなっています。本歩道橋は供用開始(昭和43年供用)から50年以上経過し、劣化が著しいため、平成31年2月より補修工事を行い、令和元年6月に完成・開通しました。

また、本歩道橋が地域シンボルとなり、学生、周辺住民、観光客等に愛着をもって利用していただくため、日頃から歩道橋を通学路として利用している熊谷女子高等学校の美術部生徒により、熊谷の観光

名所、文化財、イベント等をモチーフに制作した絵画をご提供いただき、歩道橋へ設置しました。



筑波歩道橋の補修・塗装工事完成状況



熊谷女子高生徒が制作した絵画 設置状況

(2) 熊谷駅前広場整備

市の玄関口としての景観やユニバーサルデザイン（バリアフリー）に配慮し、駅周辺の渋滞緩和や熊谷市の進める暑さ対策に取り組んだ熊谷駅正面口駅前広場改修工事についても令和元年6月5日に完成記念式典を開催しました。

本工事では、新たな情報発信ツールとして多言語対応の地図をはじめ、熊谷ラグビー場など市内の観光名所や市内で開催されるイベントなどを動画や画像で発信できるデジタルサイネージや、白御影石と鋳物を使用した高さ3.1m、幅4.7mの迫力のあるラグビーモニュメントも設置しました。

熊谷駅正面口駅前広場 工事概要

ユニバーサルデザイン

- ① 駅前広場南側(駅舎側)歩道幅 1m拡張
- ② タクシー乗り場にスロープ設置
- ③ バス・タクシーサイン看板の設置

暑さ対策

- ④ 連続シェルターの設置
- ⑤ 冷却ミストの設置
- ⑥ 透熱透水性平板ブロックに打替(歩道)
- ⑦ 透熱性舗装に打替(タクシープール)

景観

- ⑧ 演出照明の設置(シェルター内)

その他

- ⑨ 車道舗装打替
- ⑩ 歩道運用に横断防止柵の設置
- ⑪ 防犯カメラの設置

暑さ対策

④ 連続シェルター

⑤ 冷却ミスト

⑥ 透熱透水性平板ブロック

⑦ 透熱性舗装

ユニバーサルデザイン

① 南側歩道拡張

② スロープ設置

③ ハスタクシーサイン看板

景観

⑧ 演出照明

その他

⑨ 車道舗装打替

⑩ 横断防止柵

⑪ 防犯カメラ

熊谷駅正面口駅前広場改修工事概要



(完成・昼間)



(完成・夜間)

熊谷駅前広場完成状況



デジタルサイネージ



ラグビーモニュメント

6. おわりに

今回、ラグビーワールドカップ2019関連で整備した道路が開通して数か月が経過し、整備前に各所で発生していた渋滞が徐々に緩和されつつあり、今後の整備効果を期待しているところであります。

また、本市では、「スクラム!クマガヤ」をスローガンに市民のみんながスクラムを組んでまちをもっとアツク盛り上げていくためのプロジェクトを進めています。

今後は、道路の整備のみならず中心市街地のさらなる活性化と市民の暮らしやすい”まちづくり”を目指し、地域住民の皆様とともに発展しなければならないと考えています。



© 熊谷市